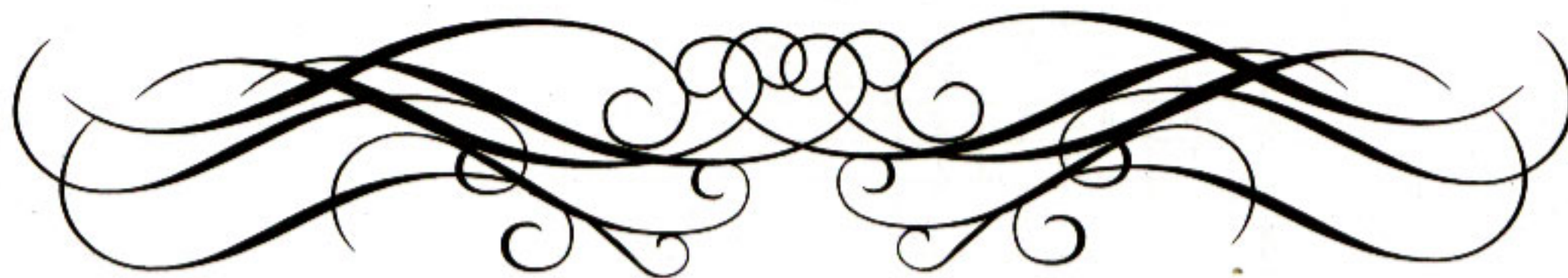


第14回 留学生による 日本語作文 コンクール

入選作発表
2007年 9 月



主催・大阪鶴見ロータリークラブ
協賛・大阪日本語教育センター



第14回作文コンクール入賞者

初級

最優秀賞

房 远 (中国)
ボウ エン
「言葉の魅力」

優秀賞

李 清珠 (中国)
リ セイシュ
「日本へ来た、なぜ」

翁 靖晴 (台湾)
オン セイセイ
「桜の力」

中級

最優秀賞

郭 維楨 (台湾)
カク イテイ
「今、おじいさんに
会いたい」

優秀賞

YOUANENSEE TENGKHANG
(ラオス)
ユアネンシー テインカン
「私の家族と教育」

WULLUR MELISSA GRACE
PAULINE
(インドネシア)
ウルル メリッサ グレース
パウリン
「はしをはしています」

上級

最優秀賞

孟 人杰 (中国)
モウ ジンケツ
「す き」

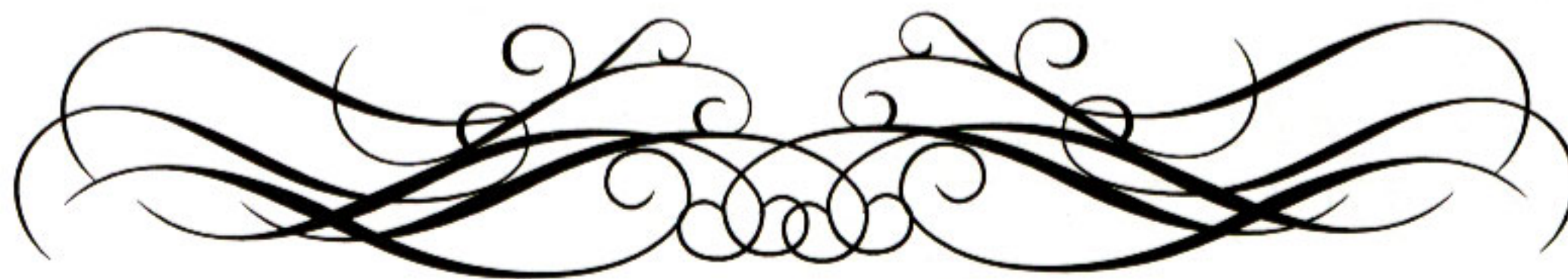
優秀賞

蔡 娜娜 (中国)
サイ ナナ
「魔法糖」

鄭 雅方 (台湾)
テイ ガホウ
「まじめな人はきれいだよ」

審査員特別賞

KALIBA AGGREY
(ウガンダ)
カリバ アグレー
「ちがう国です」



中級参加者 56名

周 玮 (中国)	周 洁 (中国)
金 ユラ (韓国)	赵 喆 (中国)
张 明 (中国)	甘 静 (中国)
赵 骁骐 (中国)	胡 平 (台湾)
姚 晓敏 (中国)	糜 丹 (中国)
刘 斐 (中国)	张 子栋 (中国)
冯 国心 (中国)	SULTANA SHAMIM (バングラデシュ)
邱 玉婷 (台湾)	CHAITANAKIT THANAPHA-ON (タイ)
李 信知 (韓国)	ENKHTUVSHIN SERGELEN (モンゴル)
孫 佳垠 (韓国)	ENKHBAATAR TSENGEL (モンゴル)
黄 允貞 (韓国)	YOUANENSEE TENGKHANG (ラオス)
JALIL DIA FITRIANI ARIA JALIL (インドネシア)	WULLUR MELISSA GRACE PAULINE (インドネシア)
崔 圭洪 (韓国)	HERIYANTO ANGELIKA NURAINI (インドネシア)
ALMAHR, HASAN MOHAMMED A (サウジアラビア)	曹 宁 (中国)
CRUZ MARTO PAUL (フィリピン)	王 蒙懿 (中国)
SHAGDAR MUNKHZUL (モンゴル)	杨 俊娟 (中国)
宣 儕昊 (韓国)	TANAKA VIVIAN (ブラジル)
LI KIN (イギリス (香港))	MOUSSA GARBA-SAY ZOULKANEL (ベナン)
芮 钰林 (中国)	袁 源 (中国)
郭 玉 (中国)	辛 凤梅 (中国)
葛 晓千 (中国)	马 文卓 (中国)
崔 智媛 (韓国)	李 大英 (韓国)
REIN WIBAWA (インドネシア)	BADIBANGA TSHIPOTA HENRI (コンゴ民主共和国)
YUSRIZAL (インドネシア)	郭 維楨 (台湾)
李 霞 (中国)	陳 奎兆 (台湾)
CHINBAT MUNKHMANLAI (モンゴル)	許 綉楹 (台湾)
SOPHILAVANH KHAMSOUK (ラオス)	王 健 (中国)
NARVAEZ GARCIA PABLO ANDRES (コロンビア)	石 晓宇 (中国)

初級参加者 49名

REBAIO CAROLINE (ソロモン諸島)	沈 辰 (中国)
HO-LEONG COLLIN LANG	徐 天伟 (中国)
TIMOTHY (パプアニューギニア)	徐 镜渊 (中国)
ABOMARGAH, ABDULLAH MOHAMMED M (サウジアラビア)	高 逸宁 (中国)
AL ALWAN, ALI HASAN A (サウジアラビア)	江 松祐 (台湾)
ALKAHTANI, MOHAMMAD ABDULWAHAB S (サウジアラビア)	周 凌帆 (台湾)
ALHARBI, ALAA AHMED H (サウジアラビア)	RATTANAPISIT ISARET (タイ)
ALSUBAIE, RAED MOHAMMED S (サウジアラビア)	NGUYEN THI KIM THOA (ベトナム)
FELEMBAN, ATHARY ABDULHALEEM M (サウジアラビア)	李 清珠 (中国)
AL MOFTY, BAYAN AMEEN M (サウジアラビア)	陳 韻如 (台湾)
安 红 (中国)	聶 宇君 (台湾)
陈 震 (中国)	张 晶 (中国)
汪 媛 (中国)	赵 文君 (中国)
王 璜 (中国)	刘 晨 (中国)
梁 潇 (中国)	何 偲瑜 (台湾)
BATAN RACHELLE ALVARADO (フィリピン)	楊 智傑 (台湾)
ALO-AD JHON KENNETH LASHERAS (フィリピン)	KANGRIWALA HITESH CHANDRAKANT (インド)
VUDIKARIA MALAKAI (フィジー)	张 志伟 (中国)
KALIBA AGGREY (ウガンダ)	THAI VAN NAM (ベトナム)
ADULU LYNNET MUSIMBI (ケニア)	SIM ALEXANDER (インドネシア)
ALDAHLAWI, MOHAMMED ABDULLAH S (サウジアラビア)	邵 忠华 (中国)
KAMAL, EMAD ADEL S (サウジアラビア)	曹 雅楠 (中国)
ALMOFTY, SARAH AMEEN M (サウジアラビア)	徐 丽丽 (中国)
肖 瑶 (中国)	林 欣微 (台湾)
翁 靖晴 (台湾)	房 远 (中国)

言葉の魅力

房 远（中国）ボウ エン

最優秀賞（初級）

今年の春、私は春風にのって、日本へ来ました。そして新しい生活も始まりました。

日本へ来たばかりの私は理想を持って、視野を広げようと思い、また自分の世界以外の世界をもっと理解したいと思っていました。そんな気持ちを持って、私は大阪日本語教育センターに入りました。

日本語学校に入る前の私はただ日本の生活に慣れ、大学院に入るために勉強したいだけでした。けれども、不思議な言葉の力がこの学校中のちがった地域から来た学生たちと知りあわせてくれました。

例えば、私の学校にはたくさんサウジアラビアのかたがいます。私にとって、この中東から来たイスラム教の民族はとても神秘的です。アラビアの印象はただ暑い砂漠、独特の民族衣装、中世紀の輝きと全世界も使っているアラビア数字。始めの時、私たちは異様な目付きでお互いを見ていていただけだったのが段々日本語を使って、話すようになり知るようになって、そして、仲よしの友達になりました。かれらは世界のほかの

地域の若者と同じで生活、音楽、勉強、平和を全部熱愛しています。ふたつのぜんぜん違う文化背景の国民がもうひとつの国の言葉を使って、互いに尊重しあうのはとても奇妙な感じがするのではありませんか。

日本語の勉強が私にこんなチャンスを与えました。言葉というのは、ただ生活に慣れ、進学をするだけの道具ではありません。最も基本的な意義は人々が相互に理解することでしょう。この学校に入る前に、私はここまでわかりませんでした。それで、私はここでもっと日本語の勉強を頑張ろうと思います。それはただ自分の夢を実現するためだけではなく、世界中の人たちと理解できるようになるために。

上級参加者 41名

李 霄 (中国)
 李 婧祎 (中国)
 高 晗 (中国)
 李 岳誠 (台湾)
 蒋 楠 (中国)
 冯 星乔 (中国)
 SARASWATI (インド)
 王 詩韻 (台湾)
 鄭 恩妃 (韓国)
 付 嘉宁 (中国)
 周 建君 (台湾)
 张 萌 (中国)
 施 柏仰 (台湾)
 孟 人杰 (中国)
 张 敏 (中国)
 鄭 泓瑋 (台湾)
 何 蕙芬 (台湾)
 高 青菁 (台湾)
 周 昕 (中国)
 鄭 雅方 (台湾)
 蔡 力 (中国)

贺 沈立 (中国)
 王 建珍 (中国)
 蔡 娜娜 (中国)
 龚 文斌 (中国)
 杜 婷婷 (中国)
 姜 大勇 (中国)
 趙 振宏 (台湾)
 蔡 政琪 (台湾)
 那 超 (中国)
 张 东宇 (中国)
 王 金兰 (中国)
 CASTROVERDE PATRICK BASCON (フィリピン)
 董 雪 (中国)
 SAE-TIEO DOUNGTHIP (タイ)
 HO STEVEN YEN-TING (カナダ)
 张 丽娜 (中国)
 林 学睿 (中国)
 杨 云屏 (中国)
 吳 思伶 (台湾)
 赵 珣玥 (中国)

日本へ来た、なぜ

李 清珠（中国）リ セイシュ

優秀賞（初級）

私が中学一年生の時の夏休みに、両親は私の「日本に行ってみたい」という希望を叶えてくれました。日本に到着してから、日本の大地から感じる新鮮な空気、規則正しく規律の取れた日本社会の雰囲気、日本人の友達の友好的な人柄、また古来より伝わる伝統と歴史を受け継ぎ重んじる日本文化の精神そのものに対して、私は大変な感動と感銘を受けました。

そして私にとって深く印象に残っている事柄が、1999年に吹田市ホールで開催していた「1999年国際高齢者年記念会」です。私はその催しに特別ゲストとして招かれ、そこで高齢者の方々を相手に世界の名曲を演奏する事が出来ました。その演奏を終えた後、会場にいた皆様より大変熱烈的な歓迎と称賛を頂戴することが出来ました。

また、この事について述べておかなければならないのが、私の演奏時に伴奏をしてくれた大阪音楽大学の学生、舞台監督、照明担当者などの日本人スタッフの方々が、皆さん積極的に懸命に協力して下さいったとい

う事です。私はこの事に触れ、日本民族が根底に持っている尽業精神というものに、ますます崇敬の気持ちを満たしていくようになりました。そしてこの時を機に、将来必ず日本へ留学に行くのだという希望の芽を培っていくようになりました。

現在私は日本語学校で日本語を勉強しています。それから、大学に入りたいです。私は日本国で日本語を勉強し習得して、堅実なる日本語と英語の基礎を養い活かしつつ、日本の大学で勉強したいと願っております。知識を身に一杯付けて、中国へ帰国して、祖国と日本そして世界に貢献できるよう頑張っていきたいです。

桜の力

翁 靖晴（台湾） オン セイ セイ

優秀賞（初級）

日本は不思議が溢れている国だ。

不思議の力は桜だ。

日本に来た時は、ちょうど桜が咲く時だった。全部の道の上は全部花びらで、日本はぷんぷんという匂いがする雰囲気には溢れていた。

私の学校の後ろにある公園には、桜がある。

とても壮観で、とても綺麗だ。非常に感動する。花びらが漂いながら降ってくる。気持ちが良い。数枚花びらを拾って、ポケットの中に入れて持って帰る。押し花にして、感動を台湾へ持って帰って、友達にも桜の力を感じてもらうことができる。

日本の桜は特別で美しく、ピンクで、白は、非常にかわいい。たとえ小さな公園でも桜がある。完全な雰囲気だ。

私は今日本にいて、まだ友達に渡せない。非常に寂しくて、一人で本当にとても寂しい。いつも昼休みに、私は学校の後ろの公園に行って、桜を見ている。桜は私を頑張らせているようだ。

桜は私を一生懸命見ている。私は力強さを感じる！

桜は私を励ます。今の私はたくさんの友達が作れたよ！一生懸命日本語を勉強するのは楽しい！これは全部桜の力のおかげだよ！来年希望でいっぱい桜が咲いた時、私は一人で桜を見にいかない。私の友達と一緒に桜を見に行く。一緒に桜の力をもらいに行く！

桜！あなたに感謝します！私はあなたが大好きですよ！来年会いましょう！

ちがう国です

KALIBA AGGREY (ウガンダ) カリバ アグレー

審査員特別賞 (初級)

日本せいふのしょう学金のしけん
にパスしました。うれしいきもちで
いっぱいです。へいせい19年四月二
日の四時にウガンダのエンテッビ
くうこうでひこうきにのってそら
をとびました。はじめてのひこう
きで、しんぞうがドキドキしまし
た。せかいはちいさいと思って見
ていました。いいながめでした。
アジスアベバまで二時間、次の
ドバイまで六時間、もう一度の
りかえてから八時間かかって、
ついに日本につきました。つ
いたのは四月三日ごろでした。
ぜんぶで25時間もかかりまし
た。くうこうから日本語学校の
りょうまでタクシーで来ました。
その時海が見え、夕方はそらが
しずかでへいわなかんじでした。

次の日、大阪の町を歩きました。
ウガンダではトヨタやニッサン
やミツビシなどたくさんの日本
の車がはしっています。です
から日本もぜんぶ車だと思い
ました。けれどもこのとしで
はじてん車が一番のりもの
です。それに男の人と女の
人もみんなのります。び
っくりしました。自国の女
の人はじてん車にもオートバ

イにものりません。

五月ごろりょうのだいどころ
でゴキブリを見ました。は
じめ私は自分のてにもつで
持って来たと思いました。
ちがいます。それは日本の
ゴキブリでした…。その外
のりものも国とはかなりち
がいます。ちかてつはたい
へんいいはんそうのかたち
です。やさしくてあんぜん
でしんようできます。国
では毎日せいかつでボダ
ボダという名前のオートバ
イを使います。それはおも
しろいですが、雨の日は少
しふべんです。ですからし
ょうらい国にもちかてつが
できるでしょう。

今三か月ぐらい大阪に住ん
でいます。どうしてウガン
ダと日本はちがいますか。
今、よくわかりません。
これから日本語をよく勉
強して来年から専門学
校で電気通信を勉強しな
がらもっと日本のことを
知りたいです。三、四年
ぐらいあとでたぶんい
ろいろなこたえがわかる
でしょう。

今、おじいさんに会いたい

郭 維楨（台湾）カク イテイ

最優秀賞（中級）

この間、島田洋七さんが書いた『佐賀のがばいばあちゃん』を読みました。文章を読んでいる時、感動して涙が出て来ました。なぜかという、広島から引っ越して来た主人公の島田さんはばあちゃんと一緒に佐賀の田舎で貧乏な生活をしていたけれども、がばいばあちゃんは文句ひとつ言わずに明るく前向きに暮らしていたからです。その生きる姿に祖父の姿を感じ、何だか懐かしくなりいろいろ幼いころのことを思い出しました。

私は生まれてから、母の仕事の関係で田舎へ引っ越してずっと祖父母と一緒に住んでいました。毎日畑へ行っては幼馴染と遊んで楽しく過ごしました。両親の仕事が忙しかったので、小学校に入るまでほとんど祖父母に育てられました。祖父はお茶を売る店を経営していました。昔はお茶を製造する機械がそんな多くなかったので主に手で生産しました。

製茶が始まる時は私が一番好きな時でした。なぜなら、祖父は製茶をする間、お茶についていろいろな話をしてくれました。乾燥したお茶か

ら香りやにおいが家中に充満して本当に幸せだと思いました。以前、祖父はビジネスマンで仕事のため、常に日本に出張していました。祖父は出張に行くたびに、きっとプレゼントを買って来てくれました。幼稚園の時は、五十音の練習帳を買ってくれまして、それをきっかけに日本語に少し興味を持ちました。日本教育を受けた祖父はよく簡単な日本語や日本の物語を教えてくださいました。

祖父はいつもにこにこしていて怒った顔を一度もしなかったし、「失敗しても大丈夫だよ。一度も試さなければ後悔するよ。」とよく言い、どんなつらい時でも笑って積極的に生きていました。その姿は私に大きな影響を与えました。今まで、悩んでいる時やなかなか決められない時に、よく祖父の一言が頭に浮かんで来て励まされました。

田舎に住んでいた日々は一生忘れられないと思います。祖父は暇さえあれば私をつれて川へ行って釣りをしたり、夏には蝉とか蛍とかを捕まえたりします。まだ子供だった私は何もわからず、祖父にたくさんの問

題を聞きました。今、思い出してみるとその時祖父が辛抱強く一つずつ教えてくれたことを本当にありがたく思います。

しかし、年寄りになった祖父は体が弱くなって介護センターに入院しました。病気になっても、いつものように積極的な態度で生きてみんなを心配させなかったし、孫たちのことを気にして、お見舞いに行くたびに、学校のことを聞きました。特に、私が大学に合格して新人生になった時、祖父は私が日本語を専門に勉強することを喜んでくれました。祖父を看病する時、いつも日本語でしゃべったり日本に関する話を話したりしました。「いつか、日本へ行ってみなさい。」としばしば私に言いました。

残念なことに、祖父は四年前に亡くなってしまいました。現在、日本に来て勉強していることを祖父に伝えられなくてつらく思います。もし、祖父が知ったら、どんなに喜んでくれるでしょう。祖父には知識の外に、人生についてもどんな態度で生きたらいいかとか教えてもらいました。「素直に生きなさい。」という一言は祖父からもらった最後のプレゼントです。

大人になっても祖父に感謝したいことはいっぱいありましたが、なぜ

かいつも心にそのままとどめておいて、最後まで言えないままでした。もう一度過去に戻ることができればいいのにと時々思います。

祖父に会えたら、「おじいちゃん、と家族でいられて本当によかった。ありがとう。」と私の気持ちを伝えたいです。そして言いたいです。「おじいちゃん、今、私は日本に留学していますよ。」

私の家族と教育

YOUANENSEE TENGKHANG (ラオス) ユアネンシー ティンカン
優秀賞 (中級)

私はラオスのシンカユウンからきました。私の家族は六人です。父と母と兄と弟と妹と私です。私の父と母のしごとはのうぎょうや小売りです。毎日早くたんぼへ行きます。いつも長い時間のうさぎょうをしなければなりません。一日に十三、四時間ものうさぎょうをします。父と母にはスケジュールや長い休みやひまな時間がありません。日曜日から木曜日までのうさぎょうをします。そして、金曜日と土曜日は小さいマーケットにくつやうわぎやズボンなどを売りに行きます。(金曜日と土曜日は人が多いですからものを売ります。) 父と母は四月から十二月までのうさぎょうをします(たんぼにはこめをうえます。) それから一月から三月までやさいをうえます。そしてそれをマーケットで売ります。そのわずかなしゅうにゅうは私たちの学校のために使います。毎年ほとんどの時間はのうさぎょうをしています。けれども、こめややさいなどを少ししかもらえません。なぜですか。ラオスの人々の八十パーセントがのうぎょうろうどうしゃで

すから、毎年たくさんの林がばっさいされています。そのほか少ししか雨がふりません。長いかんばつがあります。だから水不足なのです。それに父と母にきょういくのないことです。これは困っていることです。このこんなんをかいけつできるのは教育だけです。ですから兄と私と弟と妹はみんな学校へ行って勉強しています。

始めに私の兄が学校へ行くことができました。それから何年もかかって、大学をそつぎょうすることができました。兄は大学でのうぎょうを勉強しました。今はシンカユウンののうかではたらいっています。兄はりょうしんの家に住んでいます。兄は時間がある時は父と母にのうさぎょうを教えます。今はたんぼはよくなりました。父と母はとてもほこりに思っています。

私たちきょうだいはみんな同じ学校へ行きました。今年弟は大学に入りました。けいざいを勉強しています。ラオスの大学は外国のしょうがくきんがあるので弟はオーストラリアのしょうがくきんをうけることが

できました。朝八時から四時までラオス大学が終わってから夕方五時から八時までビエンチャン大学で英語を勉強します。来年オーストラリアへ行って勉強します。弟はオーストラリアの大学をそつぎょうしてからラオスのせいふではたらくつもりです。

私の妹は今年ポンサンワン高校の学生になりました。妹は大学で医学を勉強したいと思っています。ラオスは医者が少ないです。けれども病院には病気の人が多いです。ですから妹は医者になりたいと思っているのです。

私はポンサンワン高校をそつぎょうしてから大学に入りました。せんもんは数学です。そして私は去年日本のもんぶかがくしょうのしけんをうけて、日本のしょうがくきんをうけることができました。今年の四月に日本の大阪へ来て、今、大阪日本語教育センターで勉強しています。そして学校のりょうに住んでいます。りょうではいろいろの国の人と友達になりました。日本語の勉強はとてもおもしろいです。私はもっと日本語を勉強したいです。そしてもっと上手になって日本語がよくわかるようになりたいです。私は日本語学校をそつぎょうしたあとでエンジニアリングを勉強します。そして私は大

学に入りたいです。日本は世界のせんしんこくですから、どんなことも勉強になります。ラオスはいはつとじょう国ですからテクノロジーをひつようとしています。私は日本の大学をそつぎょうしたあとでラオスの運輸省ではたらくつもりです。今、日本語をいっしょうけんめい勉強すれば、せんもん学校や大学に入った時はきっと日本語で困らないでしょう。だから「どこにいても、教育が一番たいせつだ」と思います。

はしをはしっています

WULLUR MELISSA GRACE PAULINE (インドネシア) ウルル メリッサ グレース パウリン
優秀賞 (中級)

今日わたしはホストファミリーと神戸へりょこうに出かけました。今車ははしをはしっています。雨がたくさんふっていますからさんねんです。でも天気が悪くてもここから山や海が見えます。すばらしいながめです。

わたしが日本へ来た時にも雨がふっていました。いいながめも見られました。上陸時にはひこうきのまどからさいたさくらの花が見えました。けれどもその時にわたしはこんなに楽しくなかったです。前は日本へ来ることを楽しみにしていましたが、ひこうきをおりてしんぱいしはじめました。国でぜんぜん日本語をならわなかったなのでその時日本語がぜんぜんわかりませんでした。本当に泣きたい気持ちでした。けれども、学校に入って毎日少しずつならってだんだんじょうずになりました。それにやさしい友達がたくさんいるので家族から遠くてもこどくではありません。それを思い出せば、ひとりわらいします。時間ははやくながれるようです。

お母さんが「あ、ここ。ここは神

戸花鳥園です。」と言いました。とつぜんわたしたちはむこうにつきました。ずいぶんはやいですね。

神戸花鳥園は神戸のポートアイランドにあります。ここにはたくさん花があります。それにいろいろの鳥がいますからなかなかおもしろいところだそうです。

入り口にいろいろのフクロウがいます。いろいろの国から来ました。わたしが勉強している日本語学校の学生もいろいろの国から来ました。フクロウさん、わたしたちのようにみんな仲よしですか。

せかいにさまざまなフクロウがいますね。目や耳やくちばしがちがいます。相違があるのでおもしろいです。インドネシアにはいろいろのしゅるいがあるのでその事がよくわかりました。

入り口にきれいなフクロウの絵も見られます。画家の名が書いてあります。「ヌルイルハムさん。あれ、これはインドネシア人の名前です。」びっくりですね。この絵はインドネシアでかきました。お母さんはインドネシアの絵に会えて、インドネシ

アをみ近にかんじたそうです。わたしの気持ちと同じです。

それから中に入るともう一度びっくりしました。たくさん花が上からかけてあります。すばらしいです。スタジオジブリのアニメに入ったようにかんじます。スタジオジブリのアニメはこんなにきれいでわたしは大好きです。そのアニメはわたしにかんどうをあたえましたからわたしは日本でグラフィックデザインを勉強したいです。わたしもグラフィックでかんどうをつくりたいのです。

花鳥園をぜんぶ見るとわたしたちはうちへ帰りました。車で日本の古いうたを聞くと父母を思い出しました。父は毎日インドネシアの古いうたをうたっていました。音楽は同じですから少しこいしくなります。でもホストファミリーも友達も先生たちもやさしいですからだいじょうぶです。

今日のけいけんから世間に気持ちを結んでいるはしがたくさんあることがわかりました。日本はインドネシアから遠くてもインドネシアで日本のアニメに会えます。日本でインドネシアの絵にも会えます。ですから言語しょうへきがあっても互いに気持ちをわかることができるでしょう。わたしもいつか気持ちを結んでいるはしをかけたいです。

今わたしは日本語を勉強して先生がかけたはしをはしっています。天気がいい日の外天気が悪い日もあるのできつとたいへんでしょう。でもみなものしんせつのおかげで天気が悪くなって雨がふってもすばらしいながめが見られます。道がたいへんでもいっしょにはしればおもしろくてはやくむこうにつくでしょう。みなさん、いっしょにはしりませんか。

す き

孟 人杰（中国）モウ ジンケツ

最優秀賞（上級）

私が初めて覚えた日本語は「すき」という言葉だった。

アニメの中で、かわいい制服を着ている女の子がすごくはずかしくて照れているけど、精一杯の勇気を出して、「ス…ス…すき。」と言いだした画面が頭の中に深く残っている。思い出すたびに、思わず笑ってしまう。なんと不思議な一言だなあと思っている。気が付かないぐらいの息が唇と歯の間を通して、「ス」という声を出して、はっきりしている「き」がすぐついてくる。主語も目的語も言わないのに、たった二文字で、「理屈抜きに相手に心を引きつけられる。」という純粋な気持ちを明らかに表している。こういう不思議でかわいい日本語に一日惚れしてしまった。

ずっと前から日本の文化に興味を持っていて、日本のアニメ、マンガ、ドラマ、映画、小説、音楽、どれも大好きだった。高校の頃から吉本バナナの小説にハマっていた。彼女の「キッチン」という短篇集を何度も読んでいて、D r e a m s C o m

e T r u e のラブソングを聞きながら、ぐしゃぐしゃ泣いた以前の自分がなつかしく思えた。いつの間にか、部屋に高く積み重なっている何百冊ものマンガと小説、何百枚ものC D とD V D に自分も不思議だった。それで母によく叱られたけど、ぜんぜん反省していなかった。笑われるかもしれないが、歌詞の意味が全くわからないままの私だけど、日本語の歌を歌うのをけっこう楽しんでた。さらに村上春樹や片山恭一などの小説を中国語に翻訳している有名な翻訳家・林少華先生にS o u t h e r n A l l S t a r s の中国語の訳名の間違いについて手紙を書いた。まさかと思ったが、先生からの返信がすぐ届いた。先生は私の意見を素直に受け止めて、再版の時誤りを訂正すると約束してくれた。それに先生が彼の勤めている大学の日本語学部に進学するのは大歓迎だと誘ってくれた。あの時、まだ大学受験生の私は決めた——高校の授業の忙しいせいで日本語の勉強を始めるチャンスに恵まれていなかったけど、これか

ら本気で大好きな日本語を勉強しよう——。

これをきっかけに自分が予想もしないことが起こった。高校卒業の夏休みに、日本語会話のクラスで、生まれて初めて日本人に出会った。彼は先生というより同じ年の友達みたいだった。すごく若くて元気いっばいで、授業中いつも真剣な表情でまじめに教えてくれるけど、授業が終ったとたん、かわいい男の子に戻った。笑った時に片方だけできるえくぼ、八の字になる眉、子供みtainな無邪気な笑顔、ちょっとうるさい笑い声、全部の全部、何とも言えないほどかわいい。いつの間にか、私は恋に落ちていった。

まさかこんな日が来るなんてぜんぜん思いもしなかった。自分もアニメの中のあの女の子になってしまった。目を合わせた時、心の中に閉じ込めた熱で色がついてしまいそうだった。授業中や休み時間など彼の声がしていた空気も温かく感じた。そしてすれ違うといつも吹く風も好きだった。大好きな日本語を教えてくれる先生は、彼で本当によかったと思った。一生懸命にペアのトトロのストラップを作って、彼の誕生日にプレゼントとしてあげようと思っていたが、結局はずかしくてやめにした。何度も何度も「すき」という気

持ちをちゃんと伝えようと決めていたけど、やっぱりいざ目の前にすると、何も言えなくなってしまった。夏休みが終る前、先生は実家のいろいろなことで帰国しなければならなくなっていて、あわただしくみんなと別れた。帰り道のことは何も覚えていない。ただ自分の部屋の隅にうずくまって、こぼれる涙のしずくがつぎつぎに抱いた膝に落ちた。何で早く自分の気持ちを伝えられなかったのだろう。せめて手作りのストラップだけでも贈ればよかったのに。何でもっと早く日本語を勉強しなかったのだろう。せめて今よりはうまく話しかけられるのに…こうして自分を責めながら、高校最後の夏休みを見送った。

今思い起こせば、さまざまな「すき」という気持ちがあったからこそ、今日の自分がいるわけだ。もしもあの時の片思いがなければ、日本語の勉強をまだ続けているだろうか。日本に留学できただろうか。考えれば考えるほど、あの時の自分がかわいく思えてきた。今も私は好きな人に「すき」とは言えないかもしれないけど、今住んでいるこの美しい国には、この国の不思議なかわいい言葉には、堂々と言いたい——すき！大好きなの！

魔法糖

蔡 娜娜（中国）サイ ナナ

優秀賞（上級）

おばあさん、元気ですか。

今どこにいますか。

そこから私が見えますか。

去年の秋にもう一度日本へ来ましたよ。今、一生懸命生きています。一生懸命自分の夢の実現のためにがんばっています。おばあさん見てくれましたか。

おばあさん、時々とても会いたくなります。時々子供のように甘えたいくなります。聞いて欲しい話もたくさんあります。いつも心の中で話しかけています。聞こえていますか。

おばあさん、覚えていますか。小さい頃の私はよく泣いて、みんなに「泣き虫」と言われていました。いつも泣く時に、おばあさんが袋からハンカチで包んだものをゆっくりと開けると、中からたくさんの輝く小さいものが現れました。その一つを私にくれました。「それ食べたら、幸せになれるよ。」おばあさんはニコニコして言いました。すると私はピタッと泣き止みました。口に入れるとそれは不思議な感覚でした。それが飴という物とはかなり後になって知りました。やっとわかったのだ

す。毎回もらうそのあめの顔はいつも違って、どれもきれいな色で、太陽の光できらきらしていました。「おばあさんはすごいなあ」と思いました。手品のように瓶から出てくるそれは全然少なくならないのでした。少し大きくなって、おばあさんからその瓶をもらいました。中にいろいろな色の飴が入っていました。あの時から、飴が好きになりました。飴を食べすぎて、乳歯が生えかわる時期、虫歯のため全部歯科病院で抜き取らなければならませんでした。私は毎回怖くて行くのがいやでたまりませんでした。そんな時、おばあさんは「もし行ったら、ナナの大好きな糖葫芦^①を買ってあげるよ。」と言いました。私はすぐうなずき喜んで歯医者へ行ったのでした。

おばあさん、どうしても伝えたい言葉があります。「育ててくれてありがとうございます。おばあさんがいてくれたので、幸せでした。」

おばあさんと一緒に過ごした十八年の歳月はまるで花火のように輝き、消えていきました。けれども、その十八年のことは、きっと一生忘れま

せん。

おばあさん、私たちが最後に会った日のことをしっかりと覚えていますよ。インターネットのテレビ電話に写るおばあさんの笑顔を見たあの日を。「ナナ、春になったら、おばあさんはナナの大好きな豚角煮を作って待ってるよ。」おばあさんはそう言ったよね。「じゃあ、私は日本のおいしいお菓子を買って持って帰るよ、おばあさんもナナの帰りを楽しみに待っていてね。」私たちは約束しましたよね。でも、おばあさんとの会話はその日が最後になってしまいました。

おばあさん、早く帰らなくて、ごめんなさい。今はどんなに後悔しても、どうすることも出来ません。おばあさん、許してくれますか。ナナは今でも思い出すとつらいです。

時速百四十キロで走る車。早く…早く…おばあさんどうして待ってくれないの。どうして私が着くまで待ってくれないの。両手を固く握り締め、心が痛みました。車は夜十一時、やっと実家に着きました。ドアが開くと同時に飛び出し走りました。おばあさんがいる部屋へと。

もう本当におばあさんは目を覚まさないのでしょうか。このまま私とさよならしてしまうのでしょうか。私の声は全く届いていないのでしょ

うか。「おばあさん、今どこにいるの。私の声聞こえている？おばあさん…返事してよ…ずっと私を待っているって約束したでしょう…」とおばあさんと話しました。ねえ、おばあさん…私もう帰ってきたよ…おばあさん」静かな部屋の中に一人でいる、おばあさんに語りかけました。

「おばあさん、もう一度おばあさんのご飯を食べたいよ…ねえ、おばあさん…起きてよ…おばあさん、もう一度私の名前を呼んで…」

最後には涙で声が出ませんでした。どうしても涙が止まりませんでした。おばあさんの声が聞きたかったです。もう一度名前を呼んで欲しかったのです。もっともっと話がしたかったのに、返事も私の名前も呼んではくれませんでした。

おばあさん、大人になってから、人前で泣くことははずかしいことがわかりました。けれども、どうしても泣きたい時、心が痛い時、必ず飴を食べます。口から心まで甘くなり、つらい、悲しい気持ちを全て溶かしてくれるからです。

おばあさん、会いたいよ、時々でもいいから、会いにきてよ。夢の中でもいいから、会いにきてよ。あの甘い飴を持ってきてよ。

注①「糖葫芦」は日本のお祭りで売っているりんご飴のような飴です。

まじめな人はきれいだよ

鄭 雅方（台湾）テイ ガホウ

優秀賞（上級）

「まじめな女はきれいだよ。」という話は二年前に台湾ではやっていたコマーシャルのスローガンだった。私は「そう。」と納得しましたが、もっと広い範囲で話をすれば、まじめな人でさえあれば、どんな面から見てもきれいだと思います。

最近虫歯のせいで、夜あまり眠れなくて、それをきっかけにして、朝早く起きて気分転換しようと思いました。そして、自転車で住んでいる場所の周りをぶらぶらすることにしました。いつも息がとまるほど緊張する環境に囲まれて、あまり周りのことに気がつかなかった私はまるで異世界にいる気がしました。大通りには悩まされる騒音や交通の混雑がほとんどありませんし、通りかかったカラスは「ガァガァ」と私に「おはよう」と言いそうです。5分くらいかかって、大阪城に着きました。これは1583年より豊臣秀吉が築いて、途中でいろいろな戦火を蒙り、繰り返しリフォームされていました。この立派な大阪城は古人の苦勞のおかげで、再び私の目の前に現れてとても感動させられました。それにつづい

て、護城河沿いを真っ正面近づいてきた元気いっぱいのおばあさんがほほえんで私にあいさつしてくれました。こんなに物事を真剣に夢中になっているおばあさんの姿を見て、その一瞬虫歯の痛みを覚えることなく、体全身にPowerがあふれて今日も頑張ろうと決意しました。私にとっては、人と人の距離を遠ざけてしまう今の社会で、おばあさんにいただいたあいさつが心の中でなんとも言えないほど幸せな気持ちになりました。

いつの間にか、気がついたら、もう8時になりました。そろそろ家へ帰ろうとしたところへ、よく知っている音楽が流れていました。これはごみばこ車の歌だよと思いきや、よく見ると若い少年がふたり次から次へごみを処理し、一生懸命働いているたんです。このまじめに働いている姿を見て、私はショックを受けると同時にきれいだと思いました。授業のとき、先生がおっしゃった「フリーター」と「ニート」は今日本の社会問題のひとつとされているという話をふと思い出しました。「フリーター」とは正社員として働くことなく、た

だアルバイトだけ、あまり責任感を持たずに、お金を稼ぐということです。「ニート」は「フリーター」よりもっと悪い状況になって、ほとんど家にこもって、全然働く気がないという人達です。そのまま続ければ、社会の競争力を失うだけでなく、社会の大きな負担になるかもしれません。

今まで日本の経済の繁栄を動かしていたのは50代と60代の人々です。その苦勞のおかげで、世界でいろいろな有名な日本のブランド（たとえば…T O Y O T AやS O N Yや本田など…）が作られる上に、日本の国際知名度がどんどん上がっています。彼らから見ると、今まじめに働く若い世代がみつからなくなり、そのかわり、一旦困難に遭えば、解決せずに逃げることや、過勞すぎる仕事をえらばず、容易な仕事をしたほうがいいのかということやら、そうと思われる若者がだんだん増えてきました。ですから、もし「フリーター」と「ニート」という情況が続けば、将来の日本がどうなるかなと心配する人がたくさんいます。実はこの問題について、日本だけではなく、多くの先進国でも台湾でも、このような問題も相次いでいます。なぜなら、これは「少子化」という一つの原因からなり、ただ子供がひとりだけで、両親

に大切に守られるからです。

それに対して、毎日文句を言わずに汚ないごみをリサイクルして仕事をちゃんと大切に**する**彼らを見て、感心極まりないです。やっぱり「まじめな人がきれいだよ。」という言葉は何度も何度も心の中で浮かんでいます。

私にとって、人々は生まれてから、自分は自分なりに重要な役割を演じるということです。もしこの社会を機械とたとえば、人々はそれぞれ形が違うネジです。ネジはそれだけを見れば、小さくてあまり役に立ちません。しかし、もし一ヶ足りないなら、この機械が全然動くことができません。ですから、皆は一人一人この社会でなくてはならない役目と言っても言い過ぎではないでしょう。

まじめに自分なりの役割を果せばすばらしいと思います。私が今まじめにやらないといけないのは学ぶということです。自分の能力を最大限に発揮し、いい結果か悪い結果かはとにかく、後悔を残さずまじめに頑張ろうと思います。